

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076200452
法人名	社会福祉法人全和会
事業所名	グループホームわかば
所在地	福岡県飯塚市太郎丸一ツ木499-1
自己評価作成日	平成28年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年2月12日	評価結果確定日	平成28年3月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の造りは平屋で廻廊式になっています。施設中央には中庭があり花や野菜を植え、歩行者や車椅子で眺めながら歩行や自走の訓練がなされたり、天気の良い日には日光浴をしながらお茶会をし、楽しくのんびりとすごして頂いています。毎日の食事は季節の食材を多く取り入れ季節感を味わい、時には調理方法等を利用者様に尋ねたりしながら旬のものを美味しく食していただいています。日常においては軽いストレッチをしたり、食事の前には嚥下を良くする為に楽しく大きな声で発声をしたり、歌を唄っていただいたりしています。水分の摂取量お一人1500cc以上を目安に緩下剤等をなるべく使わずに便秘を解消し、自然排便ができる様に支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣組に加入し、近隣から入居された方の道案内により回覧板を届けたり、田植え前の溝掃除やお宮の清掃活動に入居者と共に参加する機会もあり、自然体での地域交流が行われている。運営推進会議には市担当者の出席を得ており、業務改善等にも取り組み、コンプライアンスの確保やサービスの質の確保に向けて、研修体制の充実や家族アンケートの実施、理念の共有等、真摯な取り組みが確認できる。また、看護職員により、排泄ケアや口腔ケア等の充実に取り組み、生活の質の向上に向けた働きかけも行われている。中庭を眺められるホールでの豊かな感情表現や賑やかな会話の様子から、個性を尊重した日々の関わりが事業所全体の活性化に結びついていることがうかがえる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもって常に前進するという気持ちで支援を行なっています。	職員会議では「理念」の意味について職員教育を行い、共有に力を入れている。言葉をひもとき、入居者個々の生活のペースや居場所の確保を重要視している。朝礼時に唱和し、一日の始まりとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に参加し回覧板をまわしたり、利用者様が散歩される時挨拶を交わすなど地域の方と交流できる機会を多く持つようになっている。	近隣から入居されている方の道案内により、回覧板を届けたり、田植えの前の溝掃除やお宮の清掃等に入居者とともに参加している。また、外出行事の際には、以前民生委員や看護師であったボランティアの方の協力を得る機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣で高齢者との同居や親戚に高齢者がいらっしゃると言う方々から接し方の相談を受けたり、ホームの中を見学していただいたりする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催する中で、利用者様の様子や雰囲気、報告の内容などから、貴重な意見を頂き日頃の業務やケアに生かしている。	運営推進会議は、家族代表、地域福祉委員、飯塚市担当者の出席を得て2ヶ月に1回開催されている。事業所の実状を伝え、意見交換やアドバイスを得ている。28年度より、地域包括支援センター担当者の出席が予定されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険上の制度のことを介護保険課の職員の方へ尋ねたり、生保関係の制度のことを保護課の職員の方へ尋ねたりしています。	運営推進会議には市職員の出席を得ており、状況報告書を提出している。日ごろから、制度上の質問や業務改善等についてやり取りがあり、ケースワーカーの方との情報共有も図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来るだけ拘束をしない方針ではありますが、車椅子の方が自由に移動される様にストッパーの解除を行なうなど、職員間で拘束をしない介護を目指している。施錠に関しては夜間早朝行い、利用者様の安全とセキュリティを確保している。	その日の意向や状態に応じて、本人本位のより良いケアの検討に努めている。日中の施錠は行われておらず、外出の意向に1時間ほど同行する経緯もあった。エプロンを廃止し、レストランのようなナプキンに変更されている。徘徊時及び緊急時連絡網が地域の中で整備されている。特別なことではなく、普通の感覚を大切に、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を持つと共に、報道されている虐待について話し合い、職員間で防止する事に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修によって制度を学ぶ機会を確保したが、実際に理解活用できる為にはもっと学ぶ必要があると思う。	権利擁護に関する制度については、入居時も含め、必要な際に情報を提供している。資料を基に職員間で回覧を行い、その後に確認テストを実施する等、職員の理解を深める取り組みがある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者およびケアマネージャーが説明し、その都度丁寧に対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様に年1回アンケート調査に協力頂き、貴重な意見を頂いている。又それらを職員にも伝え日頃の運営に生かしている。	年に1回家族アンケートを実施し、内容を集計し、運営推進会議の中で開示している。日常の中でも意見や要望の収集に努め、運営への反映に努めている。苦情解決従業員研修に参加している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開き、職員の声や、提案を聞き運営の参考にしている。	毎月の職員会議では、理念の共有や行政と共に取り組む業務改善について活発な意見交換が行われている。この過程を通じて課題を明確にし、サービスの質の確保に向けて真摯に取り組もうとしていることが伝わる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	忘年会内容の充実やクリスマスケーキのプレゼントなど、職員への細やかな配慮と共に、福利厚生面の充実がなされている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時は当人の働く意欲を重視したものとし、特に年齢などの制限は設けていない。又、職員がそれぞれの能力を発揮できるよう、取り組んでいる。	職員の採用にあたり、人間性を重要視し、性別や年齢による排除は行われていない。施設長の「手芸」や男性職員の「折り紙」等、特技を発揮した飾り付けがなされ、「板長」を務めていた方が料理を提供する等、職員個々の能力や個性を活かしている。希望や経験、スキルに応じた外部研修参加をサポートしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修によって学んだり、日頃の言動から反省するなど入居者様への接し方の意識改革に取り組んでいる。	人権・同和研修や権利擁護制度、高齢者虐待防止等の研修参加及び伝達を通じて、人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の内容を吟味し、適合した職員が参加するとともに、施設の業務改善や職員の意識改革に取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などの機会を利用し、同業者との交流が行なえている。連絡協議会にも参加しており、ネットワークや勉強の機会を持ち、サービスに反映している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の自宅訪問や、聞き取りなどで、本人からその不安や辛さ、そしてできなくなった事できる事など時間をかけてお聞きし、安心と信頼を頂いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の中で話やすい雰囲気を作り御家族の悩みや要望を伺い信頼関係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域資源を把握した上で、本人と御家族が何を臨んであり、どのサービスが適切かを判断している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事や負担のないことを見極め、洗濯干し、たたみ、野菜の下ごしらえ、調理、食器洗浄など見守りながら行なっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望の強い方の支援として、御家族の負担のない範囲で外泊を取り入れ、御家族も共に介護に参加できる機会を設け、本人が安心して過ごせるよう取り組んでいる。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染んできた家具や寝具、調度品などを居室に設置し環境の変化を少なくする様努めている。	近所より入居されている方もおり、地域交流や活動の場面では、道案内をしてもらうこともある。以前利用していたスーパーでの買い物に同行したり、毎週自宅での一時を過ごす方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い関係を把握し、穏やかに安心して過ごせるよう気配りしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所は死去されるケースが殆どで本人との関係は切れるが、御家族の中には連絡や来設してくださる方があり、その御相談や悩み、寂しさなどお聞きしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その行動やしぐさ、会話から本人の意向を把握するよう努めている。困難な場合もあるが、根気強く対応し不安を回避するよう努めている。	介護記録には、日々の客観的な情報が記載され、職員教育に取り組んでいることがうかがえる。日常の暮らしの中で、言葉や表情の変化、仕草等から思いや意向の把握に努めている。	現在、記録やアセスメントの内容や、介護計画への反映についても努力されていることが伝わる。主観的な情報についても大切にとらえながら、嗜好の反映等、日々の暮らしに結び付けていくことも期待されます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話から把握したり、家族からお聞きする事がある。そこから得た情報を元にサービスの充実に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の入居者が安心して健康に過ごされるよう、毎日のバイタルチェックや「何かおかしい、いつもと違う」を見逃さない様にしている。変化があれば早い対応により重度化を防いでいる。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新しく入所された利用者様について、御家族から情報を得たり、ケアを行なっていく中で職員が工夫した事を参考にして計画書に反映している。	本人、家族の意向を踏まえ、医師の意見をもとに協議を行い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとのモニタリング実践記録は各担当者が実施し、半年ごとの評価を計画作成担当者が行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員がケアしていく中で気づいた変化や工夫を、申し送りでも共有しケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望の強い方に対して、外に出て行かれるときは職員が同行し、本人が戻られるまで対応している。又、御家族と相談し定期的な外泊を行い本人の不安解消に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事や餅つきなどボランティアの方たちの協力を得て、利用者様が積極的に参加できるよう取り組んでいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に際しては看護師が中心となり、受診日程を決め、受診時においても同行し医師への報告相談を行なっている。	本人、家族の意向によるかかりつけ医との関係性を大切に、受診を支援している。通院時や訪問診療を受ける際には、日常の情報を伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りで利用者様の水分摂取量や排便状況を報告している。又、発熱など身体の異常があればすぐに看護師に報告し対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず同行し、状況を報告している。退院時も家族と同行し医療関係者から退院後の対応等について指導をいただいている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行なう為に、御家族と相談し往診や訪問看護などの必要性を事前に相談している。又協力医とも相談し施設で看取りをする体制を整えている。	入居時より、医療との連携体制について説明を行っている。状況の変化に伴い、家族や医師、職員との連携体制の確認や協議を重ね、方針の共有に努めている。これまでに看取りの実績もあり、毎年法要が行われ、入居者の方々も線香をあげている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応のマニュアル作成している。又、AEDを設置し、職員が必要時に使用できるよう日頃から指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣との関わりを日頃から持ち、災害時は協力頂くよう依頼している。又、緊急連絡網を整備し職員には常時連絡できる体制を作っている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練実施を予定している。隣接するタクシー会社とは日ごろから交流があり、夜間も営業していることから心強い。	夜間帯に加え、地震や水害を想定した災害対策についても今後の取り組みが期待されます。また、地域との馴染みの関係性を活かした相互の協力体制作りについても、今後の具体的な働きかけが期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時の声掛けや入浴、排泄時などプライバシーに配慮している。	施設長や管理者は、日ごろから声掛けや対応について振り返る機会を持ち、指導を行っている。また、理念の共有を重要視し、個別のペースや居場所の確保について意識を高めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で利用者様の意思を確認し、対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食後に休みたいと希望される方には、臥床して頂いたり、外出したい方には散歩や買い物など可能な限り希望に沿っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の寝癖直しスプレーを設置し、鏡の前で自身で髪をといて頂いたり、外出時は本人と一緒に着ていく衣類を選ぶなど支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやテーブルのセッティング、おしぼり作り、味噌汁の具を刻んで頂いたり、食器を洗って頂いている。	朝食は職員が担当し、昼食や夕食はプロの料理人の経歴を持つ方が担当している。食材の買い物や野菜の皮むきを担当してもらう等、希望や力に応じて入居者にも役割を担ってもらっている。看護職員により、個別の口腔ケアが実施されている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は1日1,500ccとし、必ず申送りでご報告し不足な場合は夜勤者が提供している。その結果、下剤の服用や座薬を使用する方が少なくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄は毎回しており、食後歯磨きが必要な方は自身で出来るよう促している。又、義歯や歯の治療にも歯科医に連絡し対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の無い方は定時にトイレ誘導している。又、トイレで排泄ができたときは本人と一緒に喜び、トイレで排泄するよう促している。	個別の排泄状況や水分摂取量を確認し、トイレでの排泄を基本として支援を行っている。日中、おむつを使用している方はいない。排泄ケアに関する研修を実施し、レポート提出にて効果的にスキルを高める取り組みがある。便秘予防に関しても、水分摂取を中心に食材や運動面での配慮を行い、自然排便を促している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやバナナ、牛乳などを摂取していただき排便コントロールをしている。又、排便状況を記録し、水分摂取量が適切にできているか確認している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は仲のよい方と一緒にさせていただくなど、温泉気分を味わっていただいたり、長風呂希望の方(1時間)にも対応している。	大きめの浴槽と家庭的な個浴槽が設置され、気の合う方同士での入浴も可能である。週3回の入浴を基本とし、ゆっくりと湯船に浸かれるよう支援を行っている。状況によってはシャワー浴も実施され、清潔保持に配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早朝起きられる方が眠たいとおっしゃる場合はベッド臥床していただき、夜更かしする方は、起きられるまで寝ていただくなど、個々に対応している。しかし、日中は離床を勧めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となって、薬に関する情報を介護職に伝えている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族様より嗜好品を預ったり、希望があれば、買い物へ同行したり、代行したりしている。又居室へ冷蔵庫や、電気ポットを持って来られる方もあり、嗜好品も楽しまれて気分転換をされています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族様の協力をいただける利用者様は頻りに外出されたり、週末は自宅で過ごされたりと戸外へ出る機会を持っていただいておりますが、その他の方々も、天気の良い日は中庭でお茶会や日光浴など楽しんでいただいております。	以前利用していたスーパーでの買い物に出かけたり、毎月銀行に出かける方、毎週自宅で過ごす方等、個別の支援が行われている。周辺の散歩の際には、近所から入居された方による道案内の中、入居者同士で車いすを押す場面も見られる。英彦山への外出行事の際には、地域ボランティアの方の協力も得ている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時は本人の好きな物を購入していただき、支払も出来る方には行なって頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば事務所の電話を使っただけだったり、御家族からの電話もお繋ぎしています。又手紙を書かれた時は、ポスト投函のお手伝いもしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房やエアコンなどで廊下や食堂ロビーの温度差が無い様に注意している。又、居室も夏や冬はエアコン温度を適切にセットしている。	広い中庭を中心として2ユニットが回廊式でつながり、食堂や玄関ホールには床暖房も設置されている。開口部が大きくとられ、夏の日差しを調整するグリーンカーテンの準備も進んでいる。玄関に近いホールを活用し、日常の活動が行われている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーにソファを設置しており、気のあった方とお喋りしたりテレビを見たりして過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みのある家具や調度品をを持参して頂いている。	居室には、仏壇や信仰の象徴である石仏、鏡台、冷蔵庫、ソファベッド等が持ち込まれ、個性や生活感ある居室が多い。手編みの花瓶カバーや買い物に出かけ購入した鉢植え等、エピソードのある物も多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の廊下は廻廊式になっているので、車椅子の方や歩行器使用の方も、安全に自走したり、歩行ができる様になっています。又廊下には手摺りも設置されているので、手摺りを使って立位訓練や歩行訓練等もされる様な環境になっています。		